

免疫学検査

() は
保存温度

	項目コード	項目名	採取容器	必用量	検査方法	基準値	区分 実施料	報告 日数	備考	外注先
骨代謝 関連	1302 5C123	NTx(尿) 1型コラーゲン架橋N-テロペプチド 5C1230000001052	5 尿スπιツツ	尿 3(冷蔵)	CLEIA法	下記参照 nM BCE/mM・CRE	生化Ⅱ 153	3~5	早期第2尿 骨吸収マーカー *1	3
	1340 5C146	尿中デオキシピリジノリン DPD 5C1460000001023	5 尿スπιツツ	尿 3(冷蔵)	EIA法	M: 2.1~5.4 F: 2.8~7.6 nM/mM・Cre	191	3~5	早期第2尿 骨吸収マーカー *1	3
	1370 3B072	骨型アルカリホスファターゼ BAP 3B0720000023051	1 全血容器(茶)	血清 0.8(冷蔵)	ホリアクリルアミド ゲル電気泳動 法	M: 3.7~20.9 F: 閉経前 2.9~ 14.5 閉経後 3.8~ 22.6 μg/L	生化Ⅱ 161	3~5	骨形成マーカー *2	3
	2484 5C120	total P1NP 1型プロコラーゲン-N-プロペプチド 5C1200000023053	1 全血容器(茶)	血清 0.3(冷蔵)	ECLIA法	M: (30~83歳) 18.1~74.1 F: (閉経前30~44 歳) 16.8~70.1 (閉経後45~79 歳) 26.4~98.2 ng/mL	生化Ⅱ 160	3~5	骨形成マーカー	3
	2244 3B222	TRACP-5b 酒石酸抵抗性ホスファターゼ5b 3B2220000023023	1 全血容器(茶)	血清 0.3(凍結)	EIA法	M: 170~590 F (YAM): 120~420 mIU/dL	生化Ⅱ 156	3~5	骨吸収マーカー *2	3
	1239 5C124	1CTP 1型コラーゲン-C-テロペプチド 5C1240000023001	1 全血容器(茶)	血清 0.3(冷蔵)	RIA2抗体法	骨転移マ ーカーと して 4.5未満 ng/mL		3~5		3

*1 **NTXとDPD** 原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針も選択時に1回、その後6ヵ月以内の薬剤降下判定時に1回限り、また薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。ただし、NTX、DPD、オステオカルシンを併せて実施した場合はいずれか1つのみ算定する

*2 **TRACP-5b** 代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回限り算定できる。NTX、オステオカルシン、DPDを併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。なお乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために検査を行い、検査結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、区分番号「B 001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫

骨粗鬆症の診断および治療薬剤の選択時における骨代謝マーカーの測定

尿中NTXの判定基準		単位nM BCE/mM・Cre
①副甲状腺摘出の適応		200以上
②悪性腫瘍（乳癌、肺癌、前立腺癌）の骨転移の指標		100以上
③骨吸収亢進の指標		55以上

* BCEは骨コラーゲン相当量（Bone Collagen Equivalents）の単位

尿中NTXの骨粗鬆症に関する基準値		
M	40~59歳	13.0~66.2
F	閉経前30~44歳	9.3~54.3
	閉経後45~79歳	14.3~89.0

単位nM BCE/mM・Cre

骨粗鬆症薬剤治療の指標	尿中NTX	DPD
骨折高リスクの指標	54.3越	7.6越
骨量減少高リスクの指標	35.3以上	5.9以上

